



平成 29 年 9 月 8 日

各 位

会 社 名 トラストホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 喜久田 匡宏
(コード番号：3286 東証マザーズ・福証Q-Board)
問合せ先 専務取締役 矢羽田 弘
(TEL. 0 9 2 - 4 3 7 - 8 9 4 4)

(訂正) 「平成 29 年 6 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、平成 29 年 5 月 10 日に開示いたしました「平成 29 年 6 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部を訂正いたしましたので、お知らせいたします。

記

訂正内容と理由

「平成 29 年 6 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」について、平成 29 年 6 月期決算作業の過程において、「その他」の区分のセグメントにて記載しておりました「メディカルサービス事業」は報告セグメントに該当することが判明したため、記載内容の一部訂正を行うものであります。

なお、訂正箇所は _____ を付しております。

【訂正箇所】添付資料 3 ページ

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

<訂正前>

⑤RV事業

RV事業につきましては、人材確保に時間を要したことで、最優先課題として取り組んでまいりました販売体制の構築に遅れが生じた影響もあり、販売台数を伸ばすことができませんでした。

以上の結果、売上高 301,548 千円(前年同期比 94.2%増)、営業損失 82,052 千円(前年同期は 107,432 千円の営業損失)となりました。

なお、平成 28 年 11 月には福岡県筑紫郡那珂川町に新店舗がオープンし、平成 29 年 1 月より営業人員を増員しております。引き続き販売体制の強化及び製造コストの低減に努め、早期の収益改善を図ってまいります。

⑥その他事業

その他事業につきましては、警備事業、メディカルサービス事業等の既存事業は概ね堅調に推移いたしました。新規事業としましては、スキンケア商品「ミニユール」の販売を第 1 四半期連結会計期間より開始いたしました。また、トラストホームエナジー株式会社において、エネファーム及びオール電化等の住宅設備機器等の販売活動を開始、第 2 四半期連結会計期間より受注を獲得できる体制となり、早期の収益化に向け注力してまいりました。

以上の結果、売上高 305,277千円(前年同期比 10.4%増)、営業損失 88,968千円(前年同期は 18,168千円の営業利益)となりました。

<訂正後>

⑤メディカルサービス事業

メディカルサービス事業につきましては、「介護老人保健施設みやこ」及び「福岡信和病院」の賃貸収入等により概ね堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高 142,197 千円(前年同期比 3.8%増)、営業利益 20,976 千円(前年同期比 48.9%減)となりました。

⑥RV事業

RV事業につきましては、人材確保に時間を要したことで、最優先課題として取り組んでまいりました販売体制

の構築に遅れが生じた影響もあり、販売台数を伸ばすことができませんでした。

以上の結果、売上高 301,548 千円（前年同期比 94.2%増）、営業損失 82,052 千円（前年同期は 107,432 千円の営業損失）となりました。

なお、平成 28 年 11 月には福岡県筑紫郡那珂川町に新店舗がオープンし、平成 29 年 1 月より営業人員を増員しております。引き続き販売体制の強化及び製造コストの低減に努め、早期の収益改善を図ってまいります。

⑦その他事業

その他事業につきましては、特に新規事業の早期収益化に向け注力してまいりました。第 1 四半期連結累計期間より、スキンケア商品「ミニュール」の販売を開始、エコ商品販売事業においては、エネファーム及びオール電化等の住宅設備機器等の販売活動を開始いたしました。

以上の結果、売上高 163,079 千円（前年同期比 16.8%増）、営業損失 109,944 千円（前年同期は 22,903 千円の営業損失）となりました。

【訂正箇所】添付資料 10ページ

3. 四半期連結財務諸表

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等)

セグメント情報

<訂正前>

I 前第 3 四半期連結累計期間（自 平成27年 7 月 1 日 至 平成28年 3 月 31 日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					計
	駐車場事業	不動産等事業	ウォーター事業	アミューズメント事業	R V 事業	
売上高						
外部顧客への売上高	5,005,765	2,109,685	1,723,830	644,393	155,258	9,638,932
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,879	16,930	1,274	698	—	22,782
計	5,009,644	2,126,616	1,725,104	645,091	155,258	9,661,715
セグメント利益又は損失(△)	420,747	△279,086	34,099	△11,621	△107,432	56,706

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	276,633	9,915,566	—	9,915,566
セグメント間の内部売上高又は振替高	67,669	90,451	(90,451)	—
計	344,302	10,006,018	(90,451)	9,915,566
セグメント利益又は損失(△)	18,168	74,874	5,797	80,672

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業、メディカルサービス事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去 293,692 千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△287,848 千円及び棚卸資産等の調整額△47 千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社（持株会社）運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「駐車場事業」セグメントにおいて、主に収益性が著しく低下した店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては5,995千円であります。

「その他」の区分において、主に収益性が著しく低下した車両の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては70千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年7月1日至平成29年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					計
	駐車場事業	不動産等事業	ウォーター事業	アミューズメント事業	R V事業	
売上高						
外部顧客への売上高	4,982,700	7,496,738	976,698	602,157	301,548	14,359,842
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,388	25,067	2,876	2,046	278	34,658
計	4,987,089	7,521,806	979,574	604,203	301,827	14,394,500
セグメント利益又は損失(△)	478,945	492,412	△110,805	△45,613	△82,052	732,886

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	305,277	14,665,119	—	14,665,119
セグメント間の内部売上高又は振替高	153,306	187,965	(187,965)	—
計	458,583	14,853,084	(187,965)	14,665,119
セグメント利益又は損失(△)	△88,968	643,918	37,275	681,193

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業、メディカルサービス事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去325,326千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△287,978千円及び棚卸資産等の調整額△72千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「駐車場事業」セグメントにおいて、主に収益性が著しく低下した店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては5,987千円であります。

「不動産等事業」セグメントにおいて、資産の用途変更に伴い、地質調査及び建築設計等に生じた費用の全額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては19,971千円であります。

「ウォーター事業」セグメントにおいて、当連結会計年度に予定しておりました新規事業の計画変更及び当該新規事業用の生産器具の大幅な仕様変更に伴い、その生産器具の製造に要した費用の全額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては23,060千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

<訂正後>

I 前第3四半期連結累計期間（自平成27年7月1日至平成28年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						計
	駐車場事業	不動産等事業	ウォーター事業	アミューズメント事業	メディカルサービス事業	RV事業	
売上高							
外部顧客への売上高	5,005,765	2,109,685	1,723,830	644,393	136,969	155,258	9,775,902
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,879	16,930	1,274	698	—	—	22,782
計	5,009,644	2,126,616	1,725,104	645,091	136,969	155,258	9,798,685
セグメント利益又は損失（△）	420,747	△279,086	34,099	△11,621	41,072	△107,432	97,778

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	139,663	9,915,566	—	9,915,566
セグメント間の内部売上高又は振替高	67,669	90,451	(90,451)	—
計	207,332	10,006,018	(90,451)	9,915,566
セグメント利益又は損失（△）	△22,903	74,874	5,797	80,672

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去293,692千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△287,848千円及び棚卸資産等の調整額△47千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社（持株会社）運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「駐車場事業」セグメントにおいて、主に収益性が著しく低下した店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては5,995千円であります。

「その他」の区分において、主に収益性が著しく低下した車両の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては70千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成28年7月1日 至 平成29年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						計
	駐車場事業	不動産等事業	ウォーター事業	アミューズメント事業	メディカルサービス事業	R V事業	
売上高							
外部顧客への売上高	4,982,700	7,496,738	976,698	602,157	142,197	301,548	14,502,040
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,388	25,067	2,876	2,046	—	278	34,658
計	4,987,089	7,521,806	979,574	604,203	142,197	301,827	14,536,698
セグメント利益又は損失（△）	478,945	492,412	△110,805	△45,613	20,976	△82,052	753,862

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	163,079	14,665,119	—	14,665,119
セグメント間の内部売上高又は振替高	153,306	187,965	(187,965)	—
計	316,386	14,853,084	(187,965)	14,665,119
セグメント利益又は損失（△）	△109,944	643,918	37,275	681,193

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去325,326千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△287,978千円及び棚卸資産等の調整額△72千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社（持株会社）運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「駐車場事業」セグメントにおいて、主に収益性が著しく低下した店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては5,987千円であります。

「不動産等事業」セグメントにおいて、資産の用途変更に伴い、地質調査及び建築設計等に生じた費用の全額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては19,971千円であります。

「ウォーター事業」セグメントにおいて、当連結会計年度に予定しておりました新規事業の計画変更及び当該新規事業用の生産器具の大幅な仕様変更に伴い、その生産器具の製造に要した費用の全額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては23,060千円であります。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。